

平成29・30年度 土木学会第1回複合構造委員会 議事録

1. 日 時：平成29年6月28日（水）14:00～17:15

2. 場 所：土木学会講堂

3. 出席者：伊藤顧問，中村(俊)顧問，三浦顧問，西崎委員長，下村副委員長，溝江幹事長，大垣委員，大山(博)委員，緒方委員，菅野委員，鬼頭委員，小林委員，近藤委員，島委員，杉浦委員，高橋委員，竹村委員，谷口委員，玉井委員，趙委員，利根川委員，中島委員，橋本(努)委員，古内委員，松本(幸)委員，三ツ木委員，山本委員，横田委員，渡辺委員，大久保幹事，葛西幹事，川端幹事，北根幹事，齋藤(成)幹事，齋藤(隆)幹事，平幹事，滝本幹事，中村(一)幹事，橋本(国)幹事，広瀬幹事，松本(高)幹事

(敬称略，計41名)

4. 配付資料：

- 委1-0 平成29・30年度 第1回複合構造委員会 議事次第
- 委1-1 平成29・30年度 複合構造委員会 委員名簿
- 委1-2 平成27・28年度 第4回複合構造委員会 議事録（案）
- 委1-3 平成29・30年度複合構造委員会体制ほか
- 委1-4 常設小委員会の委員の変更・追加
- 委1-5 メール審議結果「FRP複合構造設計・維持管理小委員会の設立」
- 委1-6 平成28年度委員会決算と平成29年度委員会予算（案）
- 委1-7-1 平成27・28年度 第11回複合構造委員会幹事会 議事録
- 委1-7-2 平成27・28年度 第12回複合構造委員会幹事会 議事録
- 委1-7-3 平成29・30年度 第1回複合構造委員会幹事会 議事録（案）
- 委1-8 平成29年度重点研究課題（研究助成金）の選考結果
- 委1-9 平成28年度委員会活動度評価結果
- 委1-10 JSCE2015の2016年度自己評価と2017年度計画
- 委1-11 10周年記念式典
- 委1-12 橋梁技術温故知新セミナー設置企画
- 委1-13 平成29年度年次学術講演会（研究討論会）
- 委1-14 平成29年度年次学術講演会（共通セッション）
- 委1-15 第12回複合・合成構造の活用に関するシンポジウム
- 委1-16 土木学会論文集A1特集号：複合構造
- 委1-17 出版関連報告
- 委1-18 示方書調整委員会報告
- 委1-19 複合構造委員会小委員会一覧
- 委1-20 H101 複合構造標準示方書小委員会

- 委1-21 H103 複合構造の基礎に関する書籍作成小委員会
- 委1-22 H106 FRPによる補修・補強指針作成小委員会
- 委1-23 H150 各種ずれ止めの性能照査のための評価方法研究小委員会
- 委1-24 H212 複合構造物の耐荷メカニズム研究小委員会
- 委1-25 H213 構造物の更新・改築技術に関する研究小委員会
- 委1-26 H214 維持管理を考慮した複合構造の防水・排水に関する調査研究小委員会
- 委1-27 H215 複合構造におけるコンクリートの収縮・クリープの影響に関する研究小委員会
- 委1-28 H216 複合構造物の構造検査と性能評価に関する研究小委員会
- 委1-29 H217 コンクリート充填鋼管部材の活用に関する調査研究小委員会
- 委1-30 H218 FRP複合構造の設計・維持管理に関する調査研究小委員会
- 委1-31 H213 構造物の更新・改築技術に関する研究小委員会 活動成果報告

5. 議事内容：

(1) 委員長挨拶

西崎委員長より、挨拶があった。

昨年12月に委員会設立10周年記念式典を実施した。既に本委員会も12年を経過することとなった。その間、標準示方書の発刊および改訂、そして、論文集特集号の発刊などを実施してきたが、さらに調査研究を進めて参りたい。委員会設立当初の初心を忘れずに、何事にも挑戦することを忘れない委員会としたい。

(2) 委員自己紹介

各委員から自己紹介があった。

委員名簿の修正点として、中村(俊)顧問の役職を特任教授へ変更する。

(3) 第4回委員会（平成27・28年度）議事録案確認

齋藤幹事より、2016年12月16日に行われた第4回委員会（平成27・28年度）議事録(案)の確認が行われ、承認された。

(4) 平成29・30年度複合構造委員会体制および平成29年度活動計画

溝江幹事長より、今期の委員会、幹事会、各小委員会（常任5小委員会、第1種4小委員会、第2種7小委員会）の体制について説明があった。

併せて、平成29年度の活動計画について説明があった。

(5) 常設小委員会の委員の変更・追加

溝江幹事長より、資料に沿って、常設小委員会および第1種小委員会の新任・変更に関する案が説明された。これを承認した。

（質問）推薦選考小委員会の新任委員にある幹事は、特に新任という認識はないが、掲載している意味を教えてください。

（回答）幹事会の中に新任の方がいるので、念のため記述した。

【審議事項】

(6) メール審議結果の確認

滝本前幹事長より，資料に沿って，説明があった。

(7) 平成 28 年度委員会決算と平成 29 年度委員会予算（案）

溝江幹事長より，資料に沿って説明があった。

平成28年度予算執行状況について，40万円ほど，残ることとなった。

平成29年度予算案について説明があった。

調査研究費は昨年度の活動状況に応じて配分されることとなるが，例年に比べて非常に厳しい状況であるとの説明があった。

（質問）昨年度の残額が，今年度の予算に反映することはあり得るか。

（回答）確認が必要だが，非常に難しい状況にある。

【報告事項】

(8) 幹事会報告

溝江幹事長より資料に沿って，平成27・28年度第11回幹事会，平成27・28年度第12回幹事会，平成29・30年度第1回幹事会議事録について説明があった。

(9) 平成 29 年度重点研究課題（研究助成金）の選考結果

溝江幹事長より，資料に沿って説明があった。

複合構造委員会より申請した研究課題については，不採択であったとの説明があった。

（質問）どのような選考なのか，少しでも状況は分からないか。

（回答）分野横断型を推奨している様子である。例年通りの審査基準で行われている。

（質問）本件は，不採択であったとは言え，非常に有益なものである。それに関連する事項として，E-learningの状況に関する土木学会への回答について，必ずしもポジティブに感じられない回答を行った理由を教えてください。

（回答）現状では，委員会内でE-Learningに関するストックがあるとは言い難いため，積極的の回答を見送ることとした。

（質問）例えば，招待講演を動画撮影し，これをストックしておくことで，今後利用することができると思われる。徐々にストックを検討してはいかがか。

（回答）引き続き，幹事会でも議論していきたい。

(10) 平成 28 年度委員会活動度評価結果

溝江幹事長より，資料に沿って説明があった。

出版物について，新刊として発刊したものがなかったため，例年を下回る結果となった。

(11) JSCE2015 の 2016 年度自己評価と 2017 年度計画

溝江幹事長より，資料に沿って説明があった。

(12) 10 周年記念式典

溝江幹事長より，資料に沿って説明があった。
学会誌にこの件に関する記事も掲載済みである。
記念誌自体の在庫がある。第1回委員会のときに，記念誌を受付に置いておく。
第1回委員会に欠席の方もおられる可能性に鑑みて，第2回でも配布することとする。
PDFファイルが誰でも見られるように公開する方向にしたい。パネルディスカッションに用いた発表ファイルもアップロードできるようにしたい。
まずは，記念誌のみを委員会のHPにて公開する。

(13) 橋梁技術温故知新セミナー設置企画

広瀬幹事より，資料に沿って説明があった。
第1回は，複合構造委員会と鋼構造委員会とのジョイントとして開催を計画している。
(コメント) 懇親会だけでも参加いただけると貴重な機会となる。
(質問) 第2回の企画は計画しているか。
(回答) まだ，決定していない状況である。
(質問) 企画を検討するメンバーは選出されているか。
(回答) 現在のところ，まだ先までのビジョンはないと言わざるを得ない。
(コメント) 第1回で終わることのないよう，幹事会等で練っていただきたい。
(質問) 温故知新を知っておいでいただきたいとする対象者の想定はどのようになっているか。
(回答) 比較的若手に出ていただきたいとしている。

(14) 平成 29 年度全国大会（研究討論会、共通セッション）

溝江幹事長より，資料に沿って，研究討論会について説明があった。
研究討論会は，H214小委員会が2期目にあたるということで，企画していただく形を取った。
広瀬幹事より，資料に沿って，共通セッションについて，説明があった。

(15) 第 12 回複合・合成構造の活用に関するシンポジウム

大久保幹事より，資料に沿って説明があった。
(質問) 今回は，その他に企画などはないか。
(回答) 講演会を検討している。
(質問) 今回は，見学会のようなものはないか。
(回答) シンポジウム前日である8日を予定している。

(16) 土木学会論文集 A1 特集号：複合構造

橋本幹事より，資料に沿って説明があった。

(17) 出版関係報告

大久保幹事より，資料に沿って説明があった。
原価回収部数に到達していない出版物については，積極的な購入を検討いただきたい。

(18) 示方書連絡調整委員会報告

渡辺委員より、資料に沿って説明があった。

構造工学委員会から重点研究課題に申請していただき、本年度採択されている。

- ・土木学会内の示方書の共通の原則を決める → そのために、本委員会からは、中島委員に入っただいている。
- ・日本の土木建築の共通化、ナショナルコードを目指す → そのために、本委員会からは、牧幹事に入っただいている。

日本のコードを海外で利用することを推進するためには、それぞれが並列で動いている状況ではなく、Eurocode0に相当するような共通のコードづくりが肝要である。

1年目で終わることなく、2年目以降は、重点研究課題にとらわれることなく活動を進めていく可能性がある。

(質問) どの程度の期間を想定しているか。

(回答) 2, 3年程度の活動期間を考えている。

(コメント) 概念的なところを文章化するところが、この調整委員会で重要なポイントとなる。よって、なるべく複合構造示方書の改訂に影響は及ぼさないようになる予定である。

(19) 小委員会報告 (11 委員会)

(H101) 複合構造標準示方書小委員会

斉藤(成)幹事より資料に沿って説明があった。

(H103) 複合構造の基礎に関する書籍作成小委員会

葛西幹事より資料に沿って説明があった。

7月末に出版委員会に提出予定。

(質問) 第2版の発行部数が少ないように見受けられるがその理由を教えてください。

(回答) 示方書の改訂への対応を鑑みて、次の改訂を見据え、控えめの数字としている。

(H106) FRP による構造物の補修・補強指針作成小委員会

中村幹事より資料に沿って説明があった。

来年3月の発刊を目指している。

(質問) 複合構造示方書に関連する部分はないか。

(回答) 少なからずあろうかと思われます。

(コメント) 示方書委員会としては、この成果に期待している。事前に情報をいただけると示方書委員会としては、有意義であるため、連携をはかりたい。

(H150) 各種ずれ止めの性能設計調査研究小委員会

古内委員より、資料に沿って説明があった。

独自の講習会は行わない方向である。

論文集への委員会報告は執筆を予定している。

H212小委員会とのコラボ企画で、成果報告を行う可能性がある。

(質問) 複合構造委員会へ提出する報告書はどのような形を想定しているか.

(回答) 示方書委員会に提出するような形を考えている.

(H212) 複合構造物の耐荷メカニズム研究小委員会

斉藤(成)幹事より、資料に沿って説明があった.

12/21に報告会を開催する予定であり、できれば、積極的にH150小委員会と共同で報告する形態をとりたい.

(H213) 構造物の更新・改築技術に関する研究小委員会

滝本幹事より、資料に沿って説明があった.

7/21に講習会を開催予定である.

(H214) 維持管理を考慮した複合構造の防水・排水に関する調査研究小委員会

溝江幹事長より、資料に沿って説明があった.

活動期間の延長を考えている.

研究討論会(全国大会)を2年間の区切りとして、開催する予定としている.

(H215) 複合構造物におけるコンクリートの収縮・クリープの影響に関する研究小委員会

川端幹事より、資料に沿って説明があった.

次期の複合構造示方書への反映を目標として行っている.

(コメント) 複合構造委員会としては、合成構造も扱っていきたいと考えている. そのため、小委員会の途中ではあるものの委員の増強を歓迎したい.

(H216) 複合構造物の構造検査と性能評価に関する研究小委員会

松本幹事より資料に沿って説明があった.

活動期間1年を経て、より内容を具体化するために小委員会の幹事を増員している.

(H217) コンクリート充填鋼管部材の活用に関する調査研究小委員会

鬼頭委員より資料に沿って説明があった.

(H218) FRP 複合構造の設計・維持管理に関する調査研究小委員会

橋本幹事より資料に沿って説明があった.

(20) 終了小委員会の活動成果報告

葛西小委員会委員長より、発表資料を元に小委員会の終了報告があった.

講習会前であるため、できる限り講習会に参加していただきたい旨の報告があった.

(質問) できれば講習会は地方での開催も検討してもらいたい.

(回答) 前向きに検討したい.

以上.

(文責 葛西)